

シンガポールにおける福祉居住施設の建築計画 その2
—施設構成と居室構成の特徴—

福祉居住施設 ナーシングホーム 高齢者
シンガポール ユニット 居室

正会員 ○竹原 弥里* TAKEHARA Misato
同 加藤 彰一** KATO Akikazu
同 チャン・シン・キー*** Chang Seng Kee
同 毛利 志保**** MORI Shiho

1. はじめに

本稿ではその1に引き続きシンガポールにおける9か所の福祉施設を対象とし、施設構成および居室構成の特徴について報告する。また、表1に調査事例の計画概要を示し、図1に基準階平面図を示す。

2. 施設構成

①ユニット人数 NHとPHにおけるユニットあたりの人数については、P1は48床、他の施設は概ね30床前後であり、大きな単位でユニットが組まれている。またWH2施設およびRH2施設についてはユニットが明確に分けられていない。これは看護・介護より、困窮者の収容という目的が強いためであると言える。

②ユニット構成 NH3施設とP1では食堂・ダイスペースとナースステーション(以下NS)を含む生活空間としてのユニットが構成されている(写真1)。P2におけるユニットに食堂はなくユニット内は看護・介護単位としてのみの計画であった。そのため、一部NHと同様に高齢認知症患者を対象としたユニットでは、建築計画と介護計画が不一致である場面が見られた。

③施設内共通施設 入居者集約型大食堂(写真2)を持

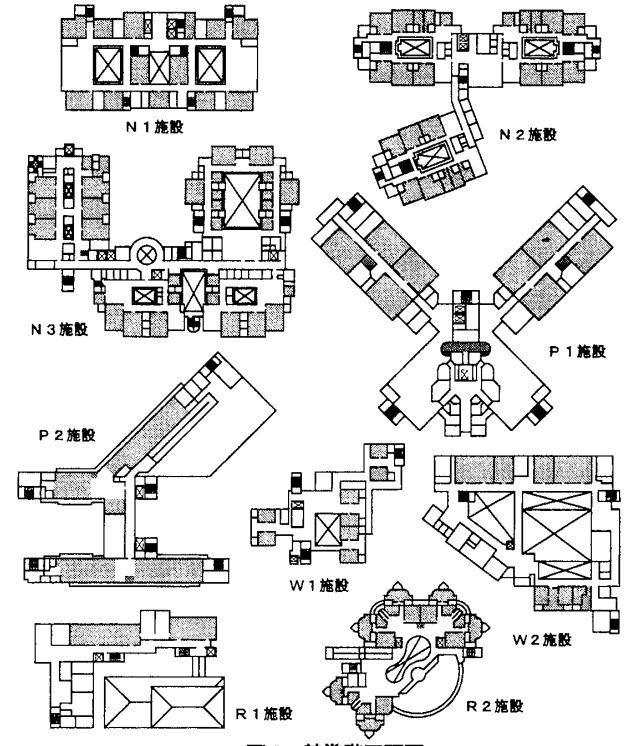


図1 基準階平面図

表1 調査施設の概要、施設構成および居室構成

施設種	ナーシングホーム (NH)			精神科ナーシングホーム (PH)	ウェルフェアホーム (WH)		レジデンシャルホーム (RH)		
	N1施設	N2施設	N3施設	P1施設	P2施設	W1施設	W2施設	R1施設	R2施設
施設概要									
開設年	2003	1999	2000	2006	2005	2002	2002	2001	1998
定員	約200	210	401	192	208	213	235	116	132
入居者の概要 実入居者の症状 平均年齢 など	高齢、認知症 平均年齢80歳以上	高齢、認知症	高齢、認知症、 精神科5%	精神科、 (一部認知症) 平均年齢69歳	精神科90%、 認知症10%	精神科50%、 ホームレス50%、 平均年齢62歳 男性のみ	精神科 平均年齢50歳 以上 女性のみ	知的障害 入居者年齢16歳 ~65歳	知的障害 平均年齢44歳
施設構成									
ユニット規模	21~40人	30人	30人前後	48人	32~35人	ユニットなし	ユニットなし	ユニットなし	ユニットなし
ユニット付属室	食堂兼ダイスペース、NS	食堂、リビング、NS	食堂兼ダイスペース、NS	食堂兼ダイスペース、NS	ソファコーナー、NS				
施設内共通施設	娯楽室、リハビリ室、図書室、カフェ、屋上	多目的室、リハビリ室、庭園	カフェテリア、作業室、多目的室、ラウンジ、教会、プール	なし(ユニット外に出られない)	大食堂兼多目的ホール、作業場、リハビリ室、礼拝所、外部休息エリア	大食堂兼多目的ホール、各フロアのラウンジ、(アクティビティセンター)	大食堂兼多目的ホール、作業場、リハビリ室、屋上広場、(アクティビティセンター)	大食堂兼多目的ホール、アクティビティホール	大食堂兼多目的ホール、リハビリエリア、娯楽エリア
居室構成									
居室規模	3~8床室	2~6床室	1~6床室	12床室	4~20床	6床室	3~10床室	18, 12床室	6~8床室
1人あたり面積	5㎡	5.5㎡	5.8㎡	5.8㎡	6.75㎡	3.3㎡	3.7㎡	4.6㎡	3.1㎡
居室壁面	腰壁	開口壁	壁	腰壁	建物形状	腰壁	壁、腰壁	開口壁	壁
家具・収納	ベッド片側 小さな収納	ベッド両側 家具調収納	ベッド片側 小さな収納	なし	ベッド片側 小さな収納	居室内一括 小さな収納	ベッド片側 小さな収納	ベッド片側 小さな収納	居室内一括 小さな収納
カーテン	あり	あり	あり	なし	あり (認知症・介護度高いユニット)	なし	なし	なし	なし

The Architectural Planning of Welfare Residential Facilities in Singapore Part II
—The Features of the Facility Composition and the Room Composition—

TAKEHARA Misato, KATO Akikazu,
Chang Seng Kee, MORI Shiho

つ施設はP2、WH2施設、RH2施設である。これらの施設では入居者が施設内に設けられた多様な場所からそれぞれの居場所を選択していた。また、P1以外の全ての施設がリハビリや娯楽につながるアクティビティスペースを有し、入居者400人を超えるN3や、全6施設が集まり同一敷地にあるW1、W2の特に大規模な施設ではより豊かなアクティビティ施設を備えていた。

3. 居室構成

①**ベッド数** NH3施設とWH2施設、およびR2では6床室前後の比較的小規模の居室が多く設けられており、N1では個室も多く設けられていた。PH2施設およびR1では12床以上の大部屋である。(写真3)小規模の居室は家庭らしいスケール感を生みだし、大規模な居室は見守り・看護・介護のしやすさ、コストの低減などの利点が生まれる。

②**1人あたり面積** 主要居室における1人あたり面積^{*}を算定した。NH3施設およびPH2施設では5㎡以上の面積を有している。また、WHの2施設およびR2では3㎡程度、R1施設では4.6㎡の面積を有している。PH2施設およびR1では大部屋であることで居室ないの通路のため面積が増大しているものと考えられる。

より広い居室面積は入居者にとっての快適さと看護・介護に適した環境づくりへ寄与するが、より狭い居室面積は、低コストで多人数の収容が可能となる。

③**壁面** 居室壁面は腰壁、(建物形状)、壁、開口壁^{**}、に大きく分けることができ、施設種による一定の傾向は見られなかった。見通しの良さや通風を最も確保でき、低コストな腰壁(建物形状)はN1、PH2施設、WH2施設でみられた。また、家庭らしいスケール感を確保できる壁はN3、W2、R2でみられ、どちらも確保できる開口壁はN2、R1でみられた。

④**家具・収納** 家具については全ての施設において個人のイスなどはなく、収納家具のみであった。N2が最も充実した収納家具を備えており、私物の表出もみられた(写真4)。他の施設ではベッドの片側に小さな収納が備えられているのみであり、個性を表すような私物の表出はほとんど見られなかった。また、P1ではベッド周辺や居室内に収納は見られず、W1、R1では居室内に一括して個人の収納スペースがとられていた。

⑤**カーテン** カーテンは高齢者・認知症を対象とした、NH3施設および、P2の認知症ユニットおよび介護度の高い精神性患者のユニットのみ設置されていた。高齢者・認知症患者よりも精神性・知的障害の患者に対するプライバシー保護の概念が弱いと考えられる。



写真1 食堂兼ディスプレイスペース (N3)

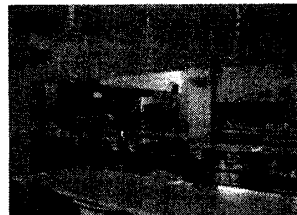


写真2 大食堂兼多目的ホール (W1)

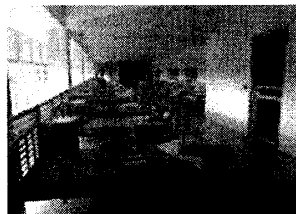


写真3 20床エリア (P2)



写真4 収納家具と私物 (N2)

5. まとめ

本研究でシンガポールの福祉居住施設の施設構成、居室構成の特徴を把握できた。

①高齢者・認知症患者を対象とするNHと精神性患者・知的障害患者を対象とした施設では建築計画が大きく異なる。NHでは比較的家庭らしい生活を重視した施設計画がされている(表2)。その他の施設では、同一敷地内にあるWH以外、大きく類似した傾向を示さなかつ

表2 ナーシングホームの計画特徴

ユニット構成	計画の特徴
施設内アクティビティ	食堂、ディスプレイスペース、NSからなるユニットを持つ。1ユニットあたり30床程度。
居室面積	リハビリ・娯楽に関わるエリアを持つ。
居室ベッド数	5㎡~6㎡
壁面構成	通常6床前後、個室や2人部屋もいくつか見られる。
家具・収納	施設によりさまざま。一定の傾向はない。
カーテン	ベッド脇に収納を持つ。容量の少ない小さいものが多い。カーテン設置。

た。これは、全体の施設数がまだ少なく望ましい計画の模索段階にあることが要因と考えられる。P1以外の施設において、精神性・知的障害の入居者を対象とした施設として、施設全体に様々な場所を設け、入居者により自由度の高い居場所の選択制を与えていた。

②個人のベッド周りでは、面積や家具等ガイドラインに満たないプランを有する場合が多い。

③患者の症状が混在している場合、建築計画一様であるため、建築計画と看護・介護計画の不一致が生じている。

④大規模化の利点を生かし、それに応じたアクティビティを提供するハードを備えていた。

施設整備の課題 個人のベッド周りについて、家具や面積の充実化などにより、その人らしさが表れやすい空間を形成する必要がある。また認知症や精神性の患者が混在する場合、症状によってきめ細かく計画する、どの症状にも対応できる計画を行うなどの工夫が求められる。

<注>
 1) 施設の主たる居室プランにおける居室内のトイレや外廊下等を除いたおよその面積。
 2) 居室の廊下側に、建具による窓がついた壁。

* 三重大学大学院工学研究科 博士前期課程
 ** 三重大学大学院工学研究科 教授・工博
 *** 三重大学大学院工学研究科 博士後期課程
 **** 三重大学大学院工学研究科 助教・工博

*Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.
 **Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.
 ***Graduate Student, Graduate School of Eng., Mie Univ.
 ****Assistant Prof., Graduate School of Eng., Mie Univ., Dr. Eng.